

キャリア教育推進のための系統的な3年間の学習プログラムを開発する ～学力向上フロンティアハイスクール事業の研究指定を受けて～

山口県立下関中央工業高等学校

機械・造船科造船コース 宮崎 明宏

1. はじめに

本校は、平成15年度から平成17年度までの3年間、文部科学省の「学力向上フロンティアハイスクール」（山口県内で9校）に指定され、実践研究を行った。

これは、平成9年度から行ってきた「学校改革」の一環で、「一括くり入学」「進学コース」の設置、「キャリア教育（2年生全員のインターンシップ）」「高大連携」の推進を行ってきて、それを「キャリア教育」の観点からまとめるために、研究指定を受けた。

2. 研究の概要

研究主題は、「キャリア教育推進のための系統的な3年間の学習プログラムを開発する」とした。

研究のねらいは、「自らが判断し、責任を持って行動できる人間」の育成を支援する教育システムの構築である。生徒はプログラムの実践から、進路選択に対する具体的な「目標」設定が可能となる。自己の夢の実現に向けて、学習意欲を喚起し、学力の向上を目指した学校生活への取り組みが定着すると思われる。

3. 実践事例集

本校で行った研究は、山口県教育委員会が発行した「山口県学力向上フロンティアハイスク

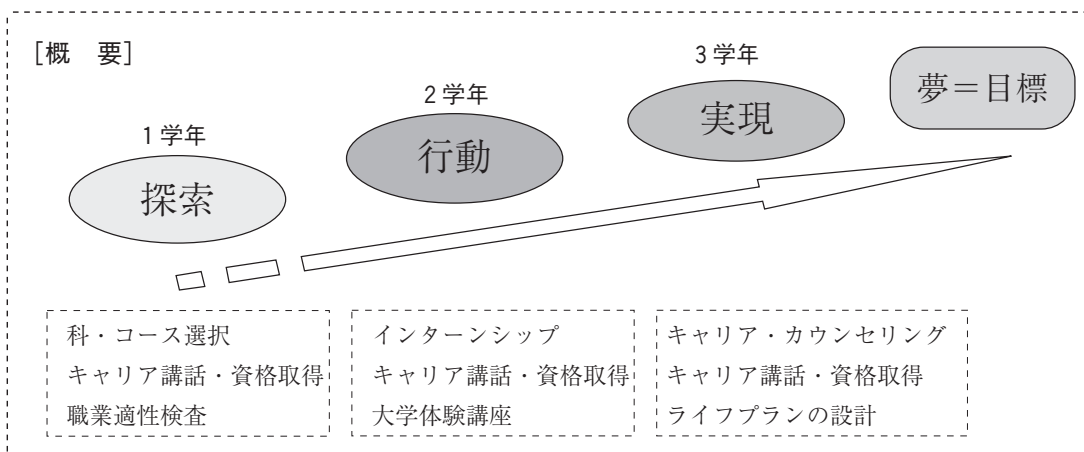
ール実践事例集」にまとめられている。本稿はそのなかから抜粋したものである。

本校は積極的にキャリア教育に取り組んできた

- 平成9・10年度文部省教育課程研究指定を受け、「教育改革実行委員会」を組織し、学校改革を実施した。平成10年度入学生から「一括くり入学の導入」「進学コースの設置」を行った。
- 平成13・14年度キャリア教育実践モデル地域指定事業（文部科学省）を受け、種々のキャリア講話（企業経営者、労働行政、年の近い卒業生等）を開催した。特に平成14年度からは本校独自で2年生全員によるインターンシップ（2日間）を実施した。
- 平成14・15年度高大連携教育下関地域実践研究会（山口県教育委員会）の指定を受け、進学コースの生徒を中心に大学訪問・出前授業等を多く行った。

キャリア教育を通して「将来どう生きたいのかどうなりたいのか」という、生きる力を育てる

キャリア教育は、文部科学省の定義によると、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」



とある。端的には「児童生徒の一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」である。また、キャリアという言葉を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と定義している。

これを受けて、インターンシップやキャリア講話等の一過性のイベントだけでなく、教育活動全体をキャリア教育の視点から見直し、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育推進のための3年間の学習プログラムを開発することにした。

3年間のテーマ及び達成目標を明確にする

それぞれの学年に対して、発達段階を考慮し

表1 3年間のテーマ及び達成目標

学年	テーマ	達成目標
1 学年	探 索	自己の個性を理解するとともに、職業全般に関する知識を増やし、進路の方向性を選択する。
2 学年	行 動	目標とする職業に関する体験的理解を深めるとともに、勤労観・職業観を確立していく。
3 学年	実 現	進路を決定し、その実現に向けて取り組む。また、決定後、将来のライフプランを具体的に設計する。

た次のテーマと達成目標を設定した（表1）。

キャリア教育推進のための学習プログラムの枠組みを4つの能力領域に分けて考える

それぞれの学年の目標を達成するための学習プログラムを考えると、表2の進路発達にかかわる4つの領域・能力で見直すことが重要である。

表2 進路発達にかかわる諸能力

領 域	領 域 説 明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。 ・ 自他の理解能力 ・ コミュニケーション能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。 ・ 情報収集・探索能力 ・ 職業理解能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。 ・ 役割把握・認識能力 ・ 計画実行能力
意志決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。 ・ 選択能力 ・ 課題解決能力

この領域を考慮しながら本校のキャリア教育学習プログラムの系統図を図1のように作成した。さらに、この系統図を具体化して、表3のような学習プログラムを作成した (p.26)。

これをもとに、学習プログラムの修正や追加を行い、毎年改善を図っている。

なお、参考までに、本校の学科・コース（4学科・6コース）と教育システム図を図2に示す (p.27)。

1年次では、学科・コースの選択指導を中心にキャリア教育を展開する

本校では、平成10年度入学生から「くくり入学」「進学コース」を導入している。選科ガイ

ダンスにより、生徒は自己の適性を認識しながら、多くの情報を得て、自らの責任の下に将来の進路を考え、学科・コースを選択していく。また、決定に向けては、個々にカウンセリングを十分に行っている。

また、「総合的な学習の時間」が導入されたが、本校ではテーマを「進路学習」として1年次に実施している。その中で選科ガイダンスやキャリア講話を組み込みながら、さらに自らの生き方・在り方について考える機会を増やしている。

図1 本校のキャリア教育学習プログラムの系統図

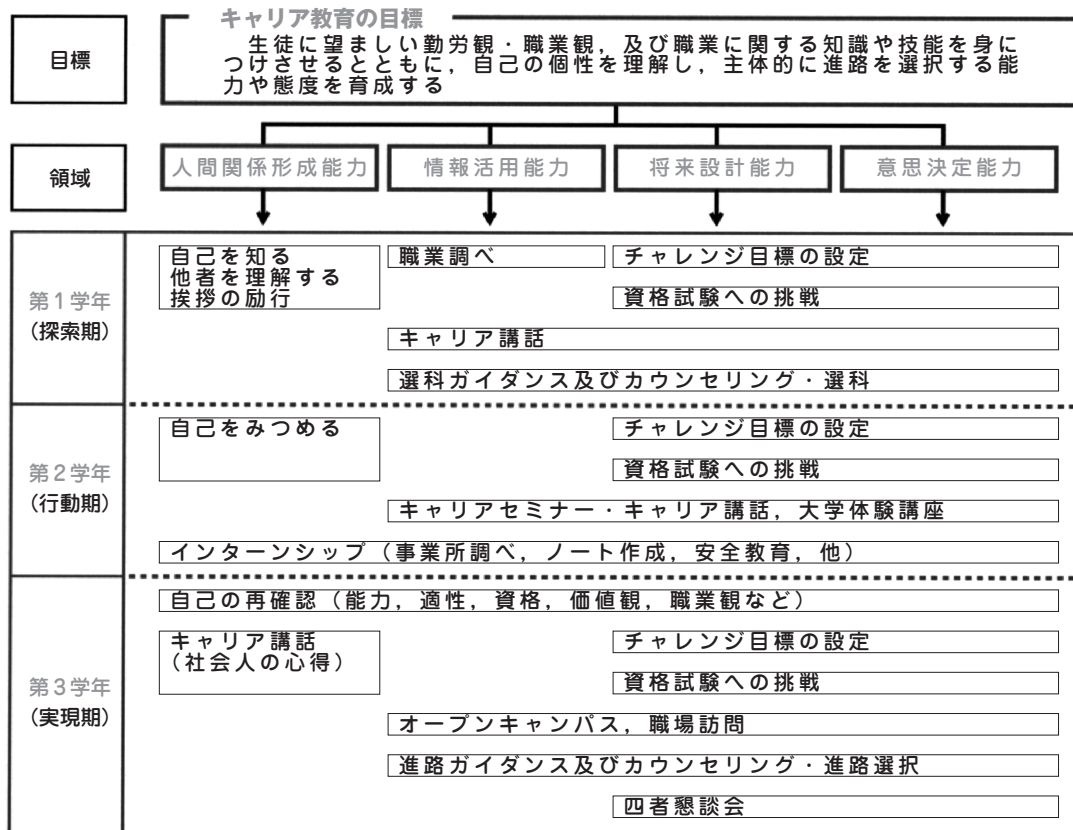


表3 本校のキャリア学習プログラム

学 年	1 学年	2 学年	3 学年
テーマ	探 索	行 動	実 現
領 域	実際の学習活動と発達が期待される具体的能力		
人間関係形成能力	◎新入生オリエンテーション ◎職業適性検査 ◎挨拶の励行 ◎体育大会 ◎中央工祭（文化祭）	◎インターンシップ（異年齢とのコミュニケーション） ◎インターンシップ発表会 ◎挨拶の励行 ◎体育大会 ◎中央工祭（文化祭）	◎キャリア講話（社会人としての礼儀やマナー） ◎課題研究及び発表会 ◎挨拶の励行 ◎体育大会 ◎中央工祭（文化祭）
情報活用能力	◎選科ガイダンス（学科・コースの説明・見学） ◎工業技術基礎（ローテーションで体験） ◎キャリア講話（ハローワーク） ◎職業調べ	◎インターンシップ（事業所調べ・理解，ノートの整理） ◎キャリア講話（年の近い卒業生） ◎工場見学 ◎大学体験講座	◎進路ガイダンス（就職・進学の方法や手続き） ◎進路情報（求人会社，受験学校） ◎オープンキャンパス
将来設計能力	◎学科・コースの選択（自分の適性・進路を考えながら） ◎資格試験への挑戦	◎インターンシップ（社会での果たすべき役割を自覚，目標に向けてやるべき課題） ◎資格試験への挑戦	◎ライフプランの設計（進路決定から次のステップへの準備…キャリア・アップ・セミナー） ◎資格試験への挑戦
意志決定能力	◎学科・コースの決定 ◎チャレンジ目標の設定（自ら目標を設定し，実現に向けて努力する）	◎チャレンジ目標の設定（将来設計や進路希望の実現を目指して，課題を設定し，その解決に取り組む）	◎キャリア・カウンセリング ◎進路の決定（選択した結果に責任を持つ） ◎チャレンジ目標の設定

2年次では，インターンシップの事前・事後指導を充実させ，将来につなげる

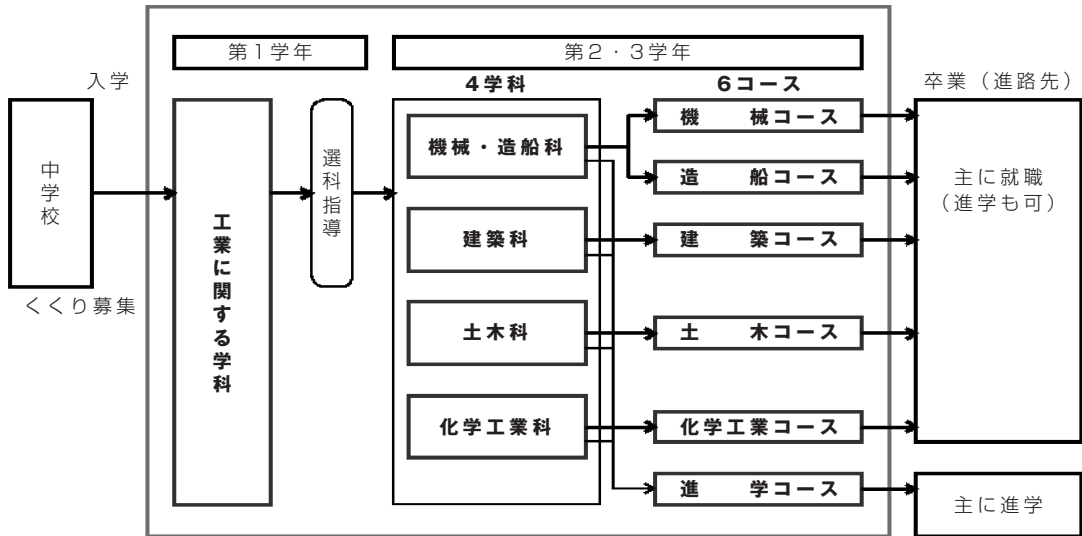
本校では，平成14年度から2年生全員によるインターンシップを実施している。本年度で4年目を迎えているが，一過性のイベント的なものに終わらせないように，年々，事前・事後指導の充実を図っている。

事前指導では，キャリアコーディネーターによる講演や企業の安全担当者による講演を実施し，より良い体験になるようにしている。

事後指導では，感想文やアンケートを書くことにより，将来を考える材料としている。また，本年度から，3学期に1・2年生全員参加のインターンシップ発表会を計画している。これにより生徒のプレゼンテーション能力を向上させたいと考えている。

さらに，学科・コース毎による工場見学（大学体験講座）や年齢の近い卒業生を招いて講演会を行うなど，体験的な活動を多く行っている。また，PTAの企業見学会を実施し，保護者への啓発も行っている。

図2 本校の学科・コース（4学科，6コース）と教育システム図



3年次では、進路決定が最重要課題だが、
内定後の期間も大切にし、実社会につなげる

3年次では、まず従来からの進路指導を行い、
就職・進学の進路をそれぞれ決定していく。このことは今までと同等に大切なことである。

本校では、平成15年度に、過去5年間本校生徒が就職した事業所にアンケートをとった結果、33.4%の者が離職しており、そのうち、50.3%の者が1年目に離職している。このことから、入社1年目を乗り越えれば、かなり早期離職が減少するものと考えられる。

そこで就職者のほとんどが内定した後の11月頃のLHR等を利用して「職場生活の心得」「仕事の基本」「安全対策」等の内容を「キャリア・アップ・セミナー」と称して講話を行い、次の社会人へのステップへつながるものとしている。

成果と課題

- これまで行ってきた学習活動をキャリア教育の観点（理念、学年のテーマ、4つの領域等）から、見直ししながら整理し関係付けていくと、不足していた部分や改善点が見えてくる。
- キャリア教育の「体験的な学習」や「キャリア講話」を実施するためには、地域の協力が必要である。それを得るためのメンバーを組織し、キャリア教育を推進していくべきである。
- キャリア教育に必要な機能は、「キャリア・ガイダンス」と「キャリア・カウンセリング」に大別されるが、本校では「キャリア・カウンセリング機能」がまだまだ不足している。最終的なキャリアは生徒個々人のものであるため、このことは非常に重要なことである。そのためには教員全体の共通認識が必要となる。